

派遣先所属： 福島県商工労働部企業立地課

氏 名： 林 純史 (はやし あつし)

派遣期間： 平成30年4月1日～平成30年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の企業立地課の担当は、3つに分かれています。1つ目は、工場立地法届出などを所管し、工業開発の総合企画を行う総務・工業担当。2つ目は、航空宇宙関連産業の集積や輸送用機械関連産業の集積・育成を図り福島県内に立地している企業の振興を図る立地企業振興担当。3つ目は、特定企業の誘致や福島県で造成を行った工業団地の管理・運営、補助金交付などを行う企業誘致担当です。

私は3つ目の企業誘致担当に所属しており、補助金チームとして福島県プロパー職員（3名）及び他県からの派遣職員（本年度は愛知県、山口県、長崎県の3名）とともに「ふくしま産業復興企業立地補助金（通称：ふくしま補助金）」の補助金交付業務を行っています。

この補助金は福島県内で工場設備等の新增設を行う企業を支援し、地域での雇用促進を図ることを目的とした補助金です。第10次指定時（平成29年9月6日現在）までに、505事業を指定し6,316人の地元雇用を見込んでいます。今年度においても第11次公募を行い、新たに42事業が指定され236人の雇用が計画されています。

主な業務内容としては、補助指定申請時の相談及び審査業務、交付申請時の支払証拠書類等の確認・審査業務、実績報告時の雇用確認業務などが挙げられます。また、本補助制度は平成24年度から運用を開始しているため、補助金交付当時から受注の変化などを要因として、補助金で取得した財産の処分（移設や改造、売却など）を行う企業が増えてきています。そのため、相談対応や処分承認、補助金返金の手続などの事務量が増えてきています。今後の事務体制として、補助金を支払うだけでなく、支払った後のフォローや管理業務により比重が増していくと感じています。



出典：福島復興ステーション HP

（「ふくしま復興のあゆみ」P13より）

## 2 被災地の復旧・復興の状況

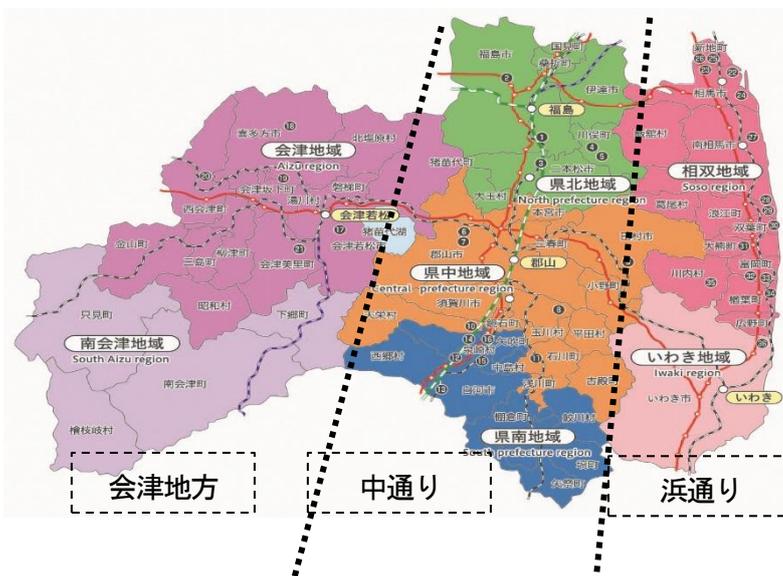
福島県は主に3つの地域（会津地域、中通り、浜通り）に大別されています。震災から7年が経ち、復旧・復興の状況は各地域により進行度合いや内容が異なっていると感じます。主に派遣先の業務と関係のある産業面から各地域の状況について説明します。

会津若松市を中心とした会津地域では、地震の影響自体は他の2つの地域に比べると比較的少なかったものの、原子力災害による風評被害などにより観光客や修学旅行生が減少し、未だ震災前の水準には達していません。しかし、知名度が増してきている日本酒の生産など地域独自の強みを生かした観光PRも行っており、復興に向けて着実に進んできていると感じます。

福島市・郡山市を中心とした中通り地域では、当時の震度も比較的高く、地盤の沈下なども多くありましたが、県の南北をつなぐ東北道、東西をつなぐ磐越道の経路地である郡山市を有している地域のため、道路の復旧などは早かったと聞いています。しかしながら、前述のとおり交通の便が良く県内産業の中心地域ではありますが、復興前の生産水準には戻っていません。そのような中、企業立地補助金等を活用し、売上を着実に伸ばしてきている企業も数多くあり、今後県の産業復興を牽引していく地域であると思います。

いわき市を中心とした浜通りでは、津波浸水の被害、そして原子力災害により甚大な被害を受けました。業務等でこの地域に赴くこともあるのですが、津波浸水の被害地域では復旧が推進され、見た目の復旧はかなり進んできていると感じました。一方で、原子力災害の被害地域では、未だに避難指示が解除されていない地域や避難指示は解除されているものの住民が戻らない地域が数多く見られ、まだまだ復旧・復興には至っていないという印象です。

福島県では、この地域の産業の回復や新たな産業基盤の構築を目指し「福島イノベーション・コースト構想」を計画し、ロボット産業やエネルギー産業の集積や人材育成などを目的とした各種施策を企画・実行しており、復興に向けて着実に一歩ずつ歩みを進めています。



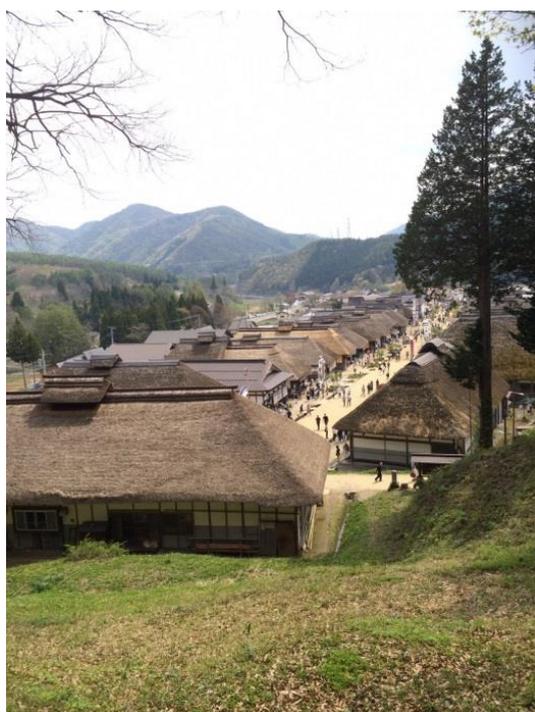
出典：企業立地課資料より

### 3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県に派遣となり、自分の目で見て体験することの大切さを感じることができました。埼玉県に住んでいる時も、被災地の現状についてのニュースを見聞きすることが多かったですが、報道されている1つの側面でしか現状を見ることができませんでした。しかし、福島県で仕事や生活をしていく中で、福島県職員の皆さんや仕事で関わる企業の皆さんなど様々な方の震災経験をお聞きすることがあり、埼玉県に住んでいるだけでは知り得なかった被災地の現状を目にすることができました。

社会人になってからは、あまり観光地などを巡ることはなかったのですが、福島県は観光名所や温泉などの保養地、各地方の名産品を多く有しているので、せっかく福島県で暮らしているのだからと、休日には様々な場所に赴いています。こちらも、自分で現地に行くことで、ネットや雑誌の情報にはなかった楽しさや美しい景色などを体験することができ、自ら経験することで感じ方が変わるものだと実感しています。こういった経験を自分自身から周りの人に伝え、その人達に実際に福島県を観光して福島県産品を購入してもらい、その体験をまた別の人達に繋いでいくことが復興には重要なことだと思います。

福島県の復興は、未だ道半ばです。しかし、一步ずつ復興を進めていこうという気持ちが県全体から感じられるのも事実です。このような中で、自分も微力ながら復興に携われていることは、非常に大切な経験になっていると感じています。



写真：下郷町 大内宿の風景



写真：二本松市 中島の地藏桜